

第2部 副実行委員長のあいさつ 山口 裕也(大原中卒業)



本日は、成人を迎えた私たちの門出に際し、このような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、今なお新型コロナウイルスの影響を受ける中、開催に向け尽力していただいた多くの皆様に、新成人を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

私たちは、今日晴れて大人としての門出を迎えることができました。こうして笑顔で成人式を迎えることができたのは、切磋琢磨し、多くの時間を共有してきた仲間たち、我が子のように接し、指導していただいた地域の皆様方や先生方、そして毎日温かく見守り続けてくれた家族のおかげです。新成人一同、感謝の気持ちを改めて強く感じています。

さて近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活環境は大きく変わりました。今まで当たり前に出ていたことが出来なくなり、さまざまな活動が制限されました。先の見えない不安を感じることもありますが、その中でも仲間の存在の大きさを改めて感じることもできました。やはりこのような時こそ、家族や地域社会、そして何よりここにいる仲間が互いに支え合うことで、この苦境を乗り越えられるだけでなく、私たち自身も成長できるのだと思います。この小郡の地で、苦しみも喜びも味わい、ともに成長してきた仲間とともに、これからも夢に向かって、一步一步進んでいきます。

最後になりますが、人生の節目を迎えるにあたり、改めて私たちは、今まで支えてくださいました皆様への感謝の気持ちを忘れず、成人としての自覚を胸にこれからの人生を歩んでいきます。まだまだ未熟者の私たちですが、どうか今後も皆様方のご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、これをもちまして成人式実行委員会代表の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第2部 新成人代表のあいさつ

西原 佳那（小郡中卒業）



本日は、私たち新成人のためにこのような盛大な式を開催していただき、本当にありがとうございます。また、市長をはじめ市の職員の皆様、ご来賓の皆様、たくさんの方々よりお祝いや励ましの言葉を頂き、心よりお礼申し上げます。このコロナ禍において成人式を迎えることができ、とても嬉しく思っています。

私たちがこの日を迎えることができたのは、優しく時には厳しく指導してくださった先生方や見守ってくださった地域の皆様、そしてたくさんの愛情を注いでくれた家族のおかげだと思っています。感謝の気持ちでいっぱいです。

2年前、コロナウイルスが蔓延し始め、あっという間に私たちの生活が変わってしまいました。外に出られなくなったことで、人と会えなかったり学校や仕事に行けなかったりと、それまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなっていました。私は高校を卒業後、大学に進学しましたが、想像していたキャンパスライフとは違い、実際は入学式もなく、半年間は自宅でオンライン授業の毎日でした。新しい環境で友達がつくれない不安感やずっと家にいるストレスが少しずつたまってしまい、つらいと感じるときもありました。徐々に制限が緩和され、現在は大学に毎日通えています。友人と、朝会ったとき「おはよう」と挨拶したり、授業の合間に他愛もない話をしたり、帰り際に「また明日ね!」「また来週!」と言ったりできるようになり、このようなことがどれだけ幸せなことであるのかを実感しました。

コロナウイルスによって苦しんだり悲しんだり辛い思いをしたりしている人がたくさんいますが、どれだけ困難な状況でも時間は過ぎていってしまいます。しかし、どのような経験でもそのときの全てが今の自分につながっていると感じています。今の大変な状況だからこそ、一瞬一瞬を大事にして歩んでいきたいと思っています。

成人となったばかりでまだまだ未熟な私たちですが、まだ見ぬ世界での成長を信じて何事にも真摯に取り組んで参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、以上で新成人代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

第2部 新成人代表のあいさつ

大中 龍也(宝城中卒業)



皆さんこんにちは。本日は私たちのために、このような盛大な式典を催していただき誠にありがとうございます。

また、市長をはじめ、来賓の方々、ご出席いただきました皆様、新成人を代表して心よりお礼申し上げます。

こうして無事成人式を開催することができ大変喜ばしく思います。私たちが生まれてから早くも20年という月日を経つことになりますが、その間に様々なことを経験し、たくさんのことを学んで参りました。

そして、その成長の過程にはいつも、両親や友人、地域の皆様など、たくさんの方々そばにいて、多くの支援や愛情を受け、今の自分が存在するのだと改めて実感しております。

私にとって、ここにいる中学時代の仲間たちは、かけがえのない存在になっております。特に、宝城中学校は人数が少なかったため、一人一人とより親密な関係を築くことができました。

当時は、学校行事をはじめ、あらゆる場面で協力し合い歩んできましたが、卒業してからは、各々が自分の将来を見据え、それぞれの道を歩いていくこととなりました。

そこには、以前のように中学の仲間と会えない悲しさや、環境の変化による不安もありましたが、中学時代の経験を活かしあらゆる壁を乗り越えてきました。

私は、学生時代、校則という縛りを窮屈に感じ、「早く大人になって自由になりたい」と考えていました。そして、現在は20歳を迎え、大人の仲間入りを果たし、校則という縛りから解放放たれることができました。

しかし、そこは自分が思っていたほど簡単な世界ではありませんでした。学生時代のように、温かいまなざしで自分の成長を見守ってもらう機会は格段に少なくなり、大人としての責任という重圧に押しつぶされそうになりながらも日々努力しております。

特に、お金を稼ぐということはとても難しく、努力に努力を重ねても一向に膨らまない財布に日々頭を悩まされています。

以前は窮屈に感じていた校則ですが、今思えば、当時の私たちは校則に縛られていたのではなく、守られていたのだと感じます。

20歳という節目の年を迎えることとなった私たちですが、社会人としてはまだまだ未熟だと、日々痛感しております。

これからも、先輩方を見習い、一人の大人として認められるように精進してまいりますので、これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、以上で新成人代表のあいさつにかえさせていただきます。